

鹿児島県

モデル圏域 南薩圏域、北薩圏域、大隅圏域

長期入院精神障害者の 地域移行推進に向けて

鹿児島県では、平成29年度から「精神障害にも対応した地域包括ケアシステム構築推進事業」を活用し、精神障害者をピアサポーターとして養成し、一般相談支援事業所で地域移行支援スタッフとして活用しながら、1年以上の長期入院精神障害者の地域移行支援を推進している。

平成31年度は、これまでモデル圏域に設定していない南薩圏域、北薩圏域、大隅圏域を対象として事業を実施し、県下全域への地域移行支援の推進を図る。

モデル圏域から自治体全体への展開に向けた方針

自治体全体への展開に向けた方向性

- ・本県における精神病床の平均在院日数は360日(平成29年)で、全国平均の268日を大きく上回っている状況にある。また、精神科病院1年未満での退院率も67.7%(平成28年度)と、全国平均の71.2%を下回っている状況にある。
- ・精神障害者の長期入院化の状況を踏まえ、平成29年度から、「長期入院精神障害者の地域移行推進事業」を実施し、ピアサポーターにより長期入院精神障害者の退院意欲を喚起することにより、長期入院精神障害者の地域移行の推進を図っている。平成31年度は、これまでモデル圏域となっていない3圏域を対象として事業を実施し、県下全域への地域移行の推進を図ることとする。

<自治体全体への展開に向けた具体的な取組方針>

1年目(今年度)

- ・3圏域においてピアサポーターを養成し、指定一般相談支援事業所において雇用する。
- ・ピアサポーターが精神科病院において体験談発表を行い、長期入院者の退院意欲の喚起を図る。
- ・退院を希望する患者に対しては、相談支援事業所が地域移行支援を実施し、毎月の戦略チーム会議において、退院までの進捗管理・課題の検討を行う。

2年目(令和2年度)

- ・相談支援事業所における需要に対応し、ピアサポーターを養成する。
- ・圏域内の精神科病院において、定期的に体験談発表を実施する。
- ・地域移行支援や戦略チーム会議を引き続き実施する。
- ・地域住民の理解を深めるための普及啓発の取組や、居住の場を確保するための新たな取組をモデル圏域において実施する。

3年目(令和3年度)

- ・2年目までの取組を更に発展・深化させることに加え、事業の成果・課題の分析・評価を実施する。

1 圏域の基礎情報

基本情報

市町村数（H31年4月時点）		4		市町村
人口（H30年10月時点）H27国勢調査を元に推計		129,127		人
精神科病院の数（H31元年4月時点）		12		病院
精神科病床数（H30元年6月時点）		1,462		床
入院精神障害者数 （H30年6月時点）	合計	1,214		人
	3か月未満（％：構成割合）	146		人
		12.0		％
	3か月以上1年未満 （％：構成割合）	205		人
		16.9		％
	1年以上（％：構成割合）	863		人
	71.1		％	
	うち65歳未満	266		人
	うち65歳以上	597		人
退院率（H28年6月時点）	入院後3か月時点	56.0		％
	入院後6か月時点	80.0		％
	入院後1年時点	86.0		％
相談支援事業所数 （H31年4月時点）	基幹相談支援センター数	0		か所
	一般相談支援事業所数	6		か所
	特定相談支援事業所数	15		か所
保健所数（H31年4月時点）		2		か所
（自立支援）協議会の開催頻度（H30年度）	（自立支援）協議会の開催頻度	12		回／年
	精神領域に関する議論を行う部会の有無	有・無		
精神障害にも対応した地域包括ケアシステムの構築に向けた保健・医療・福祉関係者による協議の場の設置状況（H31年4月時点）	障害保健福祉圏域	有・無	1 / 1	か所／障害圏域数
	市町村	有・無	4 / 4	か所／市町村数

2 精神障害にも対応した地域包括ケアの構築支援事業 実施前の課題・実施後の効果等

<平成30年度までの成果・効果>

課題解決の達成度を測る指標	目標値 (H30年度当初)	実績値 (H30年度末)	具体的な成果・効果
①地域移行推進会議の開催し、関係者間の課題の共有を図る	年2回	年2回	課題の共有は図れた
②ピアサポーターの体験談を聞き、理解を深める	3病院	2病院	職員から、患者に聞かせたいとの声あり。ピアサポーターを活用した地域移行を実施したいとの意見あり。
③福祉サービスの地域移行利用数	5	1	3事業所で取り組んだが、実施に至ったのは1事業所。他2事業所は、病院と利用に向け話し合いを行った。

3 圏域の強みと課題

【特徴(強み)】

- 1 相談支援事業所が複数存在
- 2 在院日数の長い精神科病院が複数存在
- 3 県精神保健福祉士が地域移行の取り組みに積極的

課題	課題解決に向けた取組方針	課題・方針に対する役割(取組)	
福祉サービスの地域移行を使ったことのある相談支援事業所がほぼない。	<ol style="list-style-type: none"> 1 ピアサポーターの養成講座の実施 2 地域活動支援センターが、ピアサポーターを活用した地域移行サービスを利用する。 3 地域活動支援センターが、他の相談支援事業所に活用の仕方を教える。 	行政	精神科病院等関係機関との調整 等
		医療	ピアサポーターの受入, 退院希望者リストの情報提供, 協議の場への参加 等
		福祉	住居や障害福祉サービスの調整, 協議の場への参加 等
		その他関係機関・住民等	精神疾患に対する理解
精神科病院の在院日数の格差がある。(地域活動支援センターのある病院は短く, ない病院は長い)	<ol style="list-style-type: none"> 1 地域活動支援センターが、ピアサポーターを活用した地域移行サービスを母体病院以外で実施する。 2 ピアサポーターの体験談を聞き, 事業の理解や入院患者の退院の意欲喚起を行う。 	行政	精神科病院等関係機関との調整 等
		医療	ピアサポーターの受け入れ
		福祉	住居や障害福祉サービスの調整, 協議の場への参加 等
		その他関係機関・住民等	

課題解決の達成度を測る指標	現状値 (今年度当初)	目標値 (令和元年度末)	見込んでいる成果・効果
①圏域内8病院がピアサポーターの体験談を聞く	2病院	8病院	各病院の事業の理解や入院患者の退院の意欲喚起が図れる。
②地域移行申請件数	1	9	地域移行支援体制づくりができる。

4 精神障害にも対応した地域包括ケアシステムの構築に向けた今年度の取組スケジュール

時期(月)	実施する項目	実施する内容
R1年7月	ピアサポーター養成講座の実施	<ul style="list-style-type: none"> ・病院からピアサポーターの推薦 ・ピアサポーター養成講座講師の調整 ・ピアサポーターの決定
R1年7月末	ピアサポーターの体験談支援	<ul style="list-style-type: none"> ・体験談発表の原稿作成支援 ・受け入れ病院調整 ・体験談発表(8病院)
R1年10月末	ピアサポーターによる地域移行支援開始支援	<ul style="list-style-type: none"> ・病院による退院希望者リストの作成, 提供(7月末～) ・相談支援事業所と病院が実施日等調整 ・病院が退院支援利用の意向確認 ・支援実施
R1年9月末	戦略会議の開催(月1回)	<ul style="list-style-type: none"> ・個別支援の方針等検討

1 圏域の基礎情報

基本情報

市町村数 (H31年4月時点)		5	市町村
人口 (H31年4月時点)		195,373	人
精神科病院の数 (H30年6月時点)		6	病院
精神科病床数 (H30年6月時点)		1,121	床
入院精神障害者数 (H29年6月時点)	合計	1,070	人
	3か月未満 (%:構成割合)	157	人
		14.7	%
	3か月以上1年未満 (%:構成割合)	159	人
		14.9	%
	1年以上 (%:構成割合)	754	人
		70.5	%
うち65歳未満		225	人
	うち65歳以上	529	人
退院率 (H29年6月時点)	入院後3か月時点	43 (川薩), 50 (出水)	%
	入院後6か月時点	63 (川薩), 65 (出水)	%
	入院後1年時点	88 (川薩), 70 (出水)	%
相談支援事業所数 (H31年4月時点)	基幹相談支援センター数	1	か所
	一般相談支援事業所数	4	か所
	特定相談支援事業所数	24 (内精神障害者対象 22)	か所
保健所数 (H31年4月時点)		2	か所
(自立支援)協議会の開催頻度 (H30年度)	(自立支援)協議会の開催頻度	2	回/年
	精神領域に関する議論を行う部会の有無	無	
精神障害にも対応した地域包括ケアシステムの構築に向けた保健・医療・福祉関係者による協議の場の設置状況 (H31年4月時点)	障害保健福祉圏域	無	0/1 か所/障害圏域数
	市町村	無	0/5 か所/市町村数

2 精神障害にも対応した地域包括ケアの構築支援事業 実施前の課題・実施後の効果等

<平成30年度までの成果・効果>

課題解決の達成度を測る指標	目標値 (H30年度 当初)	実績値 (H30年度 末)	具体的な成果・効果
① 地域移行支援申請件数		0	
② 圏域内ピアサポーター養成数		0	
③ 保健・医療・福祉関係者による協議の場の開催数		保健所毎に 開催	保健所毎に開催し、地域の課題について協議していた。

※ 精神障害者の地域移行・地域定着の推進について協議していたが、圏域内で具体的な指標や目標値を設定していなかった。

3 圏域の強みと課題

【特徴(強み)】

- 1 地域移行支援に積極的に取り組み意欲のある相談支援事業所がある
- 2 ピアサポーターによる体験談発表など、事業に協力する精神科病院がある
- 3 相談支援事業所や精神科病院に、地域移行に積極的に取り組んでいる相談員が複数いる

課題	課題解決に向けた取組方針	課題・方針に対する役割(取組)	
圏域内の精神科病院, 相談支援事業所で活動しているピアサポーターがいない	<ul style="list-style-type: none"> ・ピアサポーター養成講座の実施 ・ピアサポーターによる体験談発表の実施 ・ピアサポーターを活用した長期入院精神障害者の地域移行支援の実施 	行政	ピアサポーター養成講座の実施, 精神病院等関係機関との調整, 障害福祉サービスの給付決定(市町村)等
		医療	ピアサポーターの受け入れ, 退院希望者リストの提供, 協議の場への参加等
		福祉	ピアサポーターの派遣・同行, 住民や障害福祉サービスの調整, 協議の場への参加等
		その他関係機関・住民等	精神障害やピアサポーターへの理解
精神科病院, 相談支援事業所, 行政等の関係機関が, 地域移行へ向けた連携が十分とはいえない	<ul style="list-style-type: none"> ・保健・医療・福祉関係者による協議の場で地域の課題について協議する。(R2年度末までに圏域に設置する) ・顔のみえる関係性の構築, 連携強化 	行政	関係機関との調整, 地域課題の整理・分析等
		医療	地域移行の個別事案の分析・検討等
		福祉	地域移行の個別事案の分析・検討等
		その他関係機関・住民等	精神障害やピアサポーターへの理解

課題解決の達成度を測る指標	現状値 (今年度当初)	目標値 (令和元年度末)	見込んでいる成果・効果
① 地域移行支援申請件数	0	6	地域移行支援の活用が促進される
② 圏域内ピアサポーター養成数	0	20	圏域内でピアサポーターが活動できる
③ 保健・医療・福祉関係者による協議の場の開催数	保健所毎に開催	2	圏域で協議の場を設け, 課題等について協議できる

4 精神障害にも対応した地域包括ケアシステムの構築に向けた今年度の取組スケジュール

時期(月)	実施する項目	実施する内容
R1年6月	3圏域(南薩, 北薩, 大隅)合同関係者戦略会議への参加	圏域での具体的な取り組みや目標等についての協議等
R1年7月	ピアサポーター養成講座の実施(2日間)	ピアサポーターとして活動するための基本的知識等についての講義, GW等
R1年8月	相談支援事業所によるピアサポーターの雇用・訓練の開始	リカバリーストーリーの作成等
R1年9月～ R2年3月	精神科病院における体験談発表の開始 ピアサポーターによる地域移行支援開始 圏域ごとの戦略チーム会議の実施(原則, 毎月)	事業の進捗状況の確認, 支援ケースの検討等
R2年2月頃	圏域内で地域移行に関する研修会や戦略会議(最終)の開催	事業成果・課題の報告, 来年度以降の方針の協議等

1 圏域の基礎情報

基本情報

市町村数（H31年4月時点）		9	市町村	
人口（H31年4月時点）		226,006	人	
精神科病院の数（H31年4月時点）		5	病院	
精神科病床数（H30年6月時点）		777	床	
入院精神障害者数 （H29年6月時点）	合計	732	人	
	3か月未満（％：構成割合）	88	人	
		12.0	％	
	3か月以上1年未満 （％：構成割合）	145	人	
		19.8	％	
	1年以上（％：構成割合）	499	人	
68.2		％		
うち65歳未満		206	人	
	うち65歳以上	293	人	
退院率（H28年度,肝属地区）	入院後3か月時点	62.0	％	
	入院後6か月時点	82.0	％	
	入院後1年時点	90.0	％	
相談支援事業所数 （R元年5月時点）	基幹相談支援センター数	2	か所	
	一般相談支援事業所数	9	か所	
	特定相談支援事業所数	25	か所	
保健所数（H31年4月時点）		2	か所	
（自立支援）協議会の開催頻度（H30年度）	（自立支援）協議会の開催頻度	5（地域移行）	回／年	
	精神領域に関する議論を行う部会の有無	有		
精神障害にも対応した地域包括ケアシステムの構築に向けた保健・医療・福祉関係者による協議の場の設置状況（H31年4月時点）	障害保健福祉圏域	無	○ / 1	か所／障害圏域数
	市町村	無	○ / 9	か所／市町村数

2 精神障害にも対応した地域包括ケアの構築支援事業 実施前の課題・実施後の効果等

＜平成30年度までの成果・効果＞

課題解決の達成度を測る指標	目標値 (H30年度当初)	実績値 (H30年度末)	具体的な成果・効果
①地域移行の個別申請件数(曾於地区)	1	0	給付には至らなかった
②保健・医療・福祉関係者による協議回数	1	1	

3 圏域の強みと課題

【特徴(強み)】

- 1 基幹相談支援センターにおいて、既にピアサポーターを雇用し、相談支援や当事者の集まる会にピアサポーターも参加している。
- 2 地域移行支援に積極的に取り組む意欲のある相談支援事業所の存在
- 3 ピアサポーターの受け入れなど事業に協力する精神科病院が複数存在

課題	課題解決に向けた取組方針	課題・方針に対する役割(取組)	
個別給付経験がない。	管内の自立支援協議会を通じ、取組検討のための協議の場を設置する。	行政	関係機関との調整, 地域課題の整理・分析等
		医療	ピアサポーターの受入, 退院希望者リストの情報提供, 協議の場への参加 等
		福祉	地域移行支援の計画作成, ピアサポーターの同行
		その他関係機関・住民等	
曾於圏域において、46%が県外入院であり、圏域外との連携が必要である。	管内の自立支援協議会を通じ、取組検討のための協議の場を設置する。	行政	関係機関との調整, 地域課題の整理・分析等
		医療	ピアサポーターの受入, 退院希望者リストの情報提供, 協議の場への参加 等
		福祉	地域移行支援の計画作成, ピアサポーターの同行
		その他関係機関・住民等	

課題解決の達成度を測る指標	現状値 (今年度当初)	目標値 (令和元年度末)	見込んでいる成果・効果
①地域移行の個別申請件数	0	2	
②保健・医療・福祉関係者による協議回数	1	1	

4 精神障害にも対応した地域包括ケアシステムの構築に向けた今年度の取組スケジュール

時期(月)	実施する項目	実施する内容
R元年 4～5月		相談支援事業所・病院への協力要請
R元年 5月16日	ピアサポーター養成講座 事前打合せ会	ピアサポーター養成講座実施のための事前打ち合わせ会
R元年 6月7日	3圏域合同戦略チーム 会議	3圏域合同関係者戦略会議
R元年 8月3日, 4日	ピアサポーター養成講座	ピアサポーター養成講座
R元年9月か ら(月1回)	戦略チーム会議	戦略チーム会議
適宜		保健・医療・福祉関係者による協議の場で協議